

## オリエント・西洋古代史Ⅱ

### 第1講 序論

古代ギリシア史の歴史は近代史のモデル・理念型として使われてきた。

原始社会→階級社会→都市国家→王政から貴族制、僭主制そして民主政→巨大な帝国の形成と無産市民層の台頭→衆偶政治→都市の衰退と連邦→世界帝国

#### 授業の流れ

地理的環境

ギリシア史の構造

暗黒時代

原始共同体社会でなく階級社会

シュノイクスモス

ポリスとエトノス

貴族制社会

重装歩兵制と民衆の台頭

僭主

アテネとスパルタ

民主制の時代

ペルシア戦争

デロス同盟とアテナイ帝国

ペロポネソス戦争

前4世紀の世界

#### 古典としての古代ギリシア史

近代の根底に横たわる古代ギリシア

エリート文化の教養としての古代ギリシア

エリート教育：イギリスのパブリックスクール・フランスのリセ・ドイツの

ギムナジウム

古代ギリシア語やラテン語教育の重視

ヘッセの『車輪の下』：ハンスという少年。ホメロスなどのギリシアの古典

シュリーマン：『古代への情熱 シュリーマン自伝』

ルナールの『にんじん』：プルタークの『英雄伝』

## アミヨ (Amyot) のフランス語訳

大学卒業時の演説：古典語による

古典を通じてアジアを認識：バルフォア

### 近代の学問の基礎

#### Economy (経済)

οικονομία (家政術)

福沢諭吉？「経世済民」 / 「経国済民」(世の中を治め、人民を救う)

葛洪『抱朴子』(東晋)

#### Politics (政治)

Πόλις > πολιτεία + ics (～学／術)

政治 (政事) :

#### History (歴史)

ιστορία : 「事実の探求。探求により得られる知識、物語、歴史の説明」

historia : 「過去の出来事の語り、記述、寓話、物語」

トマス・ホブズ : 『リヴァイアサン』

トゥキュディデスを翻訳

「あらゆる人間に見られる一般的な傾向として死にいたるまでやむことのない 権力への普段のやみがたい欲求をあげる」

### 美術の模範

出土遺物のコレクション

ファルネーゼ宮殿・ルーブル美術館など

サモトラケのニケ、ミロのヴィーナス、フェイディアス

神殿建築の様式

バロック建築。ヴィクトリア様式。

### 歴史学

ヘロドトス・・・文化人類学と歴史学

トゥキュディデス・・・科学的歴史学

### 哲学

ソクラテス

プラトン

アリストテレス

### 自然科学

イオニア学派  
タレース

ポリスと国民国家  
コイノンと連邦、EU